

〔花き類の新品種導入および品種改良〕
芳香性シクラメン‘系統110’の施肥管理

吉岡孝行・澁澤直恵

(園芸部)

【要約】芳香性シクラメン‘系統110’は馴化時から強健で、液肥(20-20-20)による施肥管理は春期100ppm、夏期50ppm、秋冬期100ppmの各液を週1回200ml与えることで、順調な生育が確保できる。

【目的】

選抜した芳香性シクラメン系統110’は、来年度、生産者代表による栽培調査が予定されている。そこで、生育ステージ別の施肥管理のあり方等を明らかにし、現場での技術マニュアルの資とする。

【方法】

3月18日、寒天培地で育てた‘系統110、系統3’を市販培養土を充填した78穴セルトレイに移植し、移植後1週間はべたがけ資材(商品名パオパオ)で覆った。最低夜温14℃に設定、5月12日、2.5号ポリポット、7月17日、4号鉢に鉢上げした。鉢用土は赤土：腐葉土：ピートモス=4：4：2を体積割合に混合し、元肥にBMようりん5g/L、過磷酸石灰2g/Lを混用した。栽培の生育ステージとして、春期(6月3日～7月17日)、夏期(7月17日～9月26日)および秋冬(9月26日～12月5日)を設け、液肥(20-20-20)の養液濃度が異なる3種類の処理区を設けた。週1回、150～200ml/株を頭上から施用した。苗はステージ毎に新しい株を供試、液施濃度の違いが生育に及ぼす影響を調べた。

【成果の概要】

- 1) ‘系統110’は‘系統3’と同様に馴化率は95%以上で、セル移植2ヶ後には育苗ポットへ鉢上げできる大きさに育った(データ略)。今回、通常の管理で高率に馴化苗が確保されたことから、‘系統110’は幼苗期から強い性質を備えていると思われた。
- 2) 春期：施肥濃度の違いは生育様相に現れ、‘系統110’は株張り、葉柄長、葉数などに処理区間による違いが現われた。100ppm区は‘系統110’の葉色が濃くて強い草勢が感じられ、生育が最も優れた(表1)。
- 3) 夏期：両系統とも施肥濃度が高まることで株張りを高めた。‘系統3’は施肥濃度の違いが株張り、葉柄長、葉色に現れたのに対し、‘系統110’の100ppm区は葉色が濃いものの葉に照りがなくなり、新鮮さを欠いた。同系統の25ppm区と50ppm区の生育様相は類似したが、葉数が確保された50ppm区には草勢が感じられ生育が優れた(表2)。
- 4) 秋冬期：両系統とも施肥濃度の違いは葉色に最も現れた。‘系統110’は施肥濃度が高まると葉の模様が薄くなって緑色が増すため、花色と葉色のバランスが良くなり、花色を鮮やかにした。これに対し、25ppm区と50ppm区は葉色が薄く、草勢を欠いた。
- 5) 以上の結果、‘系統110’は馴化時から強健で、液肥(20-20-20)による施肥管理は、春期100ppm、夏期50ppm、秋冬期100ppmの各液を週1回200ml与えることで、順調な生育が確保できた。

表1 春期における液肥濃度の違いが‘系統110’の生育に及ぼす影響

系統名	処理区*	株張り (cm)	葉柄長 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	花芽数 (個)	葉数 (枚)	開花数 (輪)	葉色 (SPAD値)
No. 110	25ppm区	12.0	4.0	3.1	4.5	6.1	21.3	1.8	37.0
	50ppm区	13.7	4.1	3.4	4.8	5.8	23.0	0.8	38.6
	100ppm区	13.8	4.6	3.4	4.3	7.5	30.4	1.0	41.5
No. 3	25ppm区	11.6	3.3	3.3	4.8	3.4	11.0	0	30.8
	50ppm区	13.7	3.7	4.0	4.9	3.0	10.9	0	33.9
	100ppm区	14.6	4.0	4.4	5.9	3.9	14.9	0.3	41.4

*25ppm区とは窒素：リン酸：カリ＝25ppm：25ppm：25ppmを現す。

調査期間＝2003年6月3日～7月17日

供試株数 8株 (2.5号ポット) 調査日 7月17日

表2 夏期における液肥濃度の違いが‘系統110’の生育に及ぼす影響

系統名	処理区	株張り (cm)	葉柄長 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	花芽数 (個)	葉数 (枚)	開花数 (輪)	葉色 (SPAD値)
No. 110	25ppm区	16.3	6.8	3.9	5.0	5.8	54.5	3.4	33.0
	50ppm区	17.4	6.6	3.3	4.7	6.4	58.4	2.3	38.4
	100ppm区	18.2	6.4	4.3	5.3	5.5	46.5	1.7	40.1
No. 3	25ppm区	15.8	4.8	5.7	6.8	3.5	19.5	2.4	38.4
	50ppm区	18.6	5.6	5.5	6.6	4.4	22.4	1.8	49.8
	100ppm区	21.6	6.4	6.5	8.4	4.2	23.5	1.0	51.7

調査期間＝2003年7月17日～9月26日

供試株数 8株 (4号鉢) 調査日 9月25日

表3-1 秋冬期における液肥濃度の違いが‘系統110’の生育に及ぼす影響

系統名	処理区	株張り (cm)	葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	葉柄径 (mm)	花茎長 (cm)	花弁長 (cm)
No. 110	25ppm区	17.1	4.2	5.4	1.7	14.3	3.3
	50ppm区	18.9	4.1	5.6	1.7	14.4	3.4
	100ppm区	18.4	4.0	5.2	1.9	13.8	3.8
No. 3	25ppm区	19.3	5.9	7.3	3.1	16.0	4.8
	50ppm区	20.0	6.4	7.3	2.9	14.7	4.3
	100ppm区	21.0	5.5	6.7	2.8	17.5	4.5

表3-2 秋冬期における施肥濃度の違いが‘系統110’の生育に及ぼす影響

系統名	処理区	花弁幅 (cm)	花茎径 (cm)	葉数 (枚)	開花数 (輪)	葉色 (SPAD値)
No. 110	25ppm区	1.8	2.0	59.8	13.8	39.3
	50ppm区	1.8	2.1	60.9	15.2	40.2
	100ppm区	1.8	2.0	68.0	15.6	45.7
No. 3	25ppm区	2.2	3.3	30.6	6.0	41.3
	50ppm区	2.2	2.8	38.7	5.6	48.3
	100ppm区	2.1	2.8	48.4	7.0	52.3

調査期間＝2003年9月26日～12月5日

供試株数 20株 (4号鉢) 調査日 12月5日